

岸和田市立公民館及び青少年会館再編第1期実施計画 概要版

公民館等の役割

- ① 学びを通じて個人の成長を期するだけでなく、他者との交流を促し、それを通じて新たな気づきや活動への動機づけを進め、市民の主体的な活動へつなげる。
- ② 公民館等は、市民が、集い、ともに学び、結びつく場として、地域コミュニティをより強固にし、活性化する。

本市の状況

- ① 公民館等の利用者はコロナ禍以前から減少傾向にある。稼働率は低く、十分に利用されているという状況ではない。
- ② 利用者の高齢化と固定化が進行しているため、新たな利用者層を獲得しなければ、利用者の更なる減少が見込まれる。
- ③ 施設の老朽化が進み維持管理に多額の費用を要しているため、利用者層拡大に必要な施設の改修やサービスの充実を図ることができない。



求められる機能を十分に発揮し、多くの市民に開かれた施設となるためには、数や規模などの「量の維持・拡大」に重点を置くのではなく、施設の改善や提供する生涯学習のコンテンツ・サービスの充実など「質の充実」を図る必要がある。

計画期間

公共施設最適化計画（令和7年まで）

公共施設等総合管理計画（令和17年まで）

再編第1期実施計画

再編第2期実施計画

再編の方針

指針1 市民の生活圏を踏まえた施設の再編

- 耐震性に欠けるため、利用の安全性が確保できない施設
- 利用者の生活圏が重なり、再編によって移動に大きな困難をきたさない施設を優先して再編

指針2 市民の学習環境の整備と学習機会の提供

- ① オンラインによる学びの充実、② 他の公共施設での学習機会の充実
- ③ 働く世代へのアプローチ、④ 子どもの学習環境の充実
- ⑤ リカレント教育の充実、⑥ 障がいのある方の学びの充実

指針3 計画的な施設の保全・改修のための財源確保

- 多機能トイレの設置、段差の解消など利用者が安全かつ快適に利用できる公民館にする。

具体的な再編の取組

(1) 春木地区公民館・青少年会館の公民館分館（春木市民センター）への統合

昭和48年建築の春木地区公民館・青少年会館は老朽化が著しく耐震性に欠ける。平成13年度からは市の講座は公民館分館に集約、館長兼務と管理運営の一元化をすでに図っており、計画期間中の早期に機能統合し、春木地区公民館・青少年会館は廃止。

(2) 久米田青少年会館の山直地区公民館（山直市民センター）への統合

昭和39年建築の久米田青少年会館は老朽化が著しく耐震性に欠ける。平成13年度からは市の講座は山直地区公民館に集約、館長兼務と管理運営の一元化をすでに図っており、計画期間中の早期に機能統合し、久米田青少年会館は廃止。

(3) 城北地区公民館と新条地区公民館のあり方の検討

昭和47年建築の城北地区公民館は老朽化が著しく耐震性に欠ける。城北と新条は一部重複していない機能があるため、利用者が安全に活動できる場の確保等の調整を速やかに進めた上で、できるだけ早期に両施設のあり方を示す。

(4) 光陽地区公民館とふれあいセンター朝陽の機能集約

昭和44年建築の光陽地区公民館は耐震性はあるものの老朽化が著しい。近隣には高齢者ふれあいセンター朝陽があり、事業内容、貸館の利用内容が類似していることから、隣接する旧デイサービスセンターとともにリニューアルし、新たな施設として令和8年4月に開館。現光陽地区公民館は、令和7年度末に廃止。